

# 厚生文教委員会行政視察報告書

報告者名	委員長 服部 敏男
視察日	① 令和5年5月16日(火)～ ② 令和5年5月17日(水)
視察場所	① 石川県白山市／ ② 石川県かほく市
参加者	服部 敏男(委員長)、谷上 昇(副委員長) 原 重樹、浜田 千秋、松田 義人、石原 日出子、 飯阪 光典、友田 博文(随員:事務局 夕部 夏実)
視察項目	① 地域に根づく福祉サービスについて ② 公立保育施設の手ぶら登園について

## 所 感

① 5月16日(火) 石川県白山市  
～地域に根づく福祉サービスについて～

### ● 白山市の概要

白山市は、平成17年2月1日、松任市、美川町など1市2町5村の合併により誕生した。石川県加賀地方の中央部、県と金沢市の南西部に位置しており、海岸部から山間部までおよそ2700メートルの標高差と環境変化にとんだ市全域を「白山ジオパーク」として日本ジオパークに認定されている。総面積は、754.93平方キロメートルで石川県全域の18%を占め、市町村域としては県内最大の広さである。人口は、112,639人(令和5年3月31日現在)。世帯数は、45,916世帯となっている。

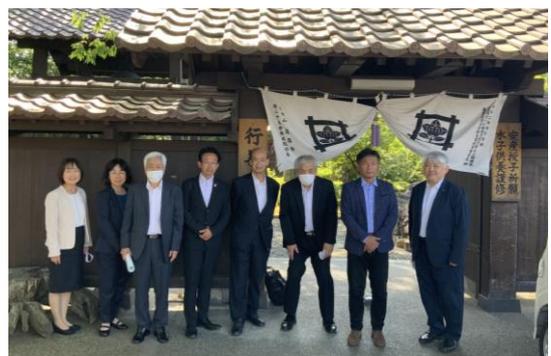
### ● 視察内容

#### 1. 地域再生計画の名称

多世代参加による生涯健康・活躍をめざす【ごっちゃん】プロジェクト

#### 2. 地域再生計画の区域

白山市の区域の一部(出城地区)



#### 3. 事業の目的

白山市、学校法人金城学園・金城大学、社会福祉法人佛子園の3者が連携・協力し、「タウン型・大学連携型CCRC」【多世代交流・多機能型拠点の整備】の実現による定住・定着を促進する。

生活活躍のまち構想：中高年齢者が希望に応じて地方やまちなかに移り住み、地域の住民(多世代)と交流しながら健康でアクティブな生活を送り、必要なに応じ

て医療・介護を受けることができるような地域づくりをめざすもの。

※C C R C : kontinuing Care Retirement Community の略

#### 4. 事業の目標

##### (1) 住民自治

地域住民が地域の課題や意見を共有し、主体的に問題解決・発展できるまちづくり

##### (2) 多世代交流

高齢者、子ども、障がい者、子育て家族、学生などを含む地域住民が「ごっちゃませ」で安心・安定して暮らせるまちづくり

##### (3) 生涯健康・生涯活躍

中高年齢者が健康で生涯活躍できるまちづくり

##### (4) 子ども・若者の定住、定着

地方創生活動の実践を通して学び、次世代を担う大学生や若者が定着・定住するまちづくり

#### 5. 事業の概要

社会福祉法人佛子園が運営する行善寺（平成27年完成）並びに「B's」（平成28年10月完成）の多機能施設（出城地区・北安田町）を中核とし、障がい者向けグループホーム、サービス付き高齢者住宅、学生等が居住するシェアハウス、学生住宅等を配置し、地域の高齢者のまちなか居住や地域・多世代交流等を支援する取組を実施する。

なお、「B's」においては、自治会室、診療室、地域健康促進施設（プール・健康促進機器の設置）、小規模保育施設等を設置し、高齢者・障がい者を含む地域住民の健康増進・管理をすることで「健康でアクティブな生活」支援するためのプログラムを提供する。

また、金城大学と連携により、地域住民の健康増進・維持に対する効果を定量的・学術的に探究するとともに、学生の社会参加を促し、次世代のリーダーの育成と本市への定住を促進する。その他、自分たちの地域のことを自分たちで考え解決していく取組や障害にわたる学習活動や社会的活動への機会



の提供を行うとともに、健康づくりや介護予防、生活支援ボランティアの養成など様々な事業を通じて、多世代が地域で元気に暮らし続けることができるまちづくりを進める。

● 和泉市で考えられること

このような多世代が参加して共に連携・協力し、それぞれが安心して暮らしていくことができる試みは、これからの少子高齢化により人口減少していく日本においては大変注目される考え方だと感じた。高齢者、子ども、障がい者、子育て家族、学生などを含む地域住民が「ごちゃまぜ」で安心・安定して暮らせるまちづくりは、コンパクトシティーを想起させ、その発想に近いものと思う。

寺の中に温泉があり、障がい者がリハビリ等を行う。厨房を併設し食事する場所も作ることで、人が集まってくる場所になる。高齢者が楽しく話をしながら、過ごせるところになっている。すぐ横には、医療機関が存在し、必要な場合対応できる。周辺の土地が広大で工場や農地がある。そこでは野菜や様々な作物も作っている。建物内には運動できるスペースがあり、そこで様々な方が運動している。広めの部屋は無料で利用できるようになっており、自治会の会議やその他自由に使われているとのこと。

本市にはこれらのような施設もなく、民業への影響もあまり存在しない。市として補助金を出してそれも含めて運営されている。そのような主体者や場所があれば、本市においても活用できるのではないか。

② 5月17日（水） 石川県かほく市  
～公立保育施設の手ぶら登園について～

● かほく市の概要

石川県のほぼ中央に位置し、県都金沢市の北約20キロメートルに位置している。西に風光明媚な日本海を望み、北は、宝達志水町、東は津端町、南は、内灘町に施している。地勢は、東から西に向かい産地、丘陵地、段丘地沖積低地、海岸砂丘地で形成されています。北部では、大海川が日本海に、南部では宇ノ気川が河北潟に注ぎ、これらの地形が言った位置なった緑豊かな自然環境を有している。

平成16年3月1日高松町・七塚町・宇ノ気町の3町が合併し、「かほく市」が誕生。市の面積は、64.44km<sup>2</sup>、人口は35,411人、世帯数は10,545世帯（平成16年）から令和5年3月末現在で人口は、35,940人世帯数は、14,151世帯に増加している。

● 視察内容

1. 定住人口増加プロジェクト

①ターゲットを絞った定住促進

若者や若年世帯

## ②子育て支援策の充実

経済的支援 ⇒ 保育の質向上

### 2. 定住促進・子育て支援事業の取組（②の子育て支援事業の内容）

#### 【経済的支援】

- ・赤ちゃんすくすく応援事業（H19）
- ・不妊治療費助成の拡充・不育治療費助成制度の創設（H23）
- ・こども医療費助成の拡充（H23）
- ・高校卒業まで入院・通院の自己負担分全額助成
- ・幼保無償化に伴う3～5歳児副食費無償化（R1）

#### 【保育の質の向上】

- ・子ども総合センター「おひさま」開設（H27年）
- ・こども園幼児造形事業（H30年）
- ・こども園登降園管理システム導入（R2）
- ・育児担当制保育、紙おむつ定額サービス開始（R4）
- ・高校通学定期券購入支援事業スタート（R5）
- ・健康福祉部に「子ども家庭課」を設置（R5）

### 3. おむつサブスクリプションの状況について

#### 【導入の経緯】

子育てサービス向上の一環として、こども園に通園する児童（保護者）の負担軽減を目的として実施。

※同時期にコロナ対策も兼ねた「コットの導入」を行っており、保護者が毎週持ち帰りする「お布団」を廃止している。（代わりにタオルケットなど簡易な荷物で対応できるようにした。）



実際に使用しているコット▶

## 【導入後の状況】

各園の申し込み概数（5 / 1 現在）

	高松	大海	はまなす	ひまわり	しらゆり	新化	みずべ	金津
R4. 5. 1	14	3	18	10	16	26	16	8
R5. 5. 1	8	2	11	6	7	12	10	2
総人数	41	18	44	42	64	72	63	20
割合 (%)	19. 5	11. 1	25. 0	14. 3	10. 9	16. 6	15. 8	10. 0

(単位/人)

※R 4. 5. 1は導入1か月後で、無料お試し期間中

(R 4. 6. 1では現在とほぼ同数)

### ○保護者の所感

#### 【好評な例】

- ・ R 4・5年度進入園児⇒ベッドと併せて「こういうスタイル」という認識がある
- ・ 双子など兄弟姉妹のいる保護者⇒荷物が減るのが便利とのこと
  - ※名前を書かなくてもよい・荷物が減って便利という意見が大半
  - ※スマートフォンでOKな点もよい

#### 【不評な例】

- ・ 在園児⇒今までのスタイルで十分
  - ※価格の割高感
  - ※おむつの種類による抵抗
    - かほく市だと、園への通園に車を利用する方が多いため、おむつを持ち運ぶことに抵抗は少ない。
- ・ おむつに氏名をまとめて書いておき、そのまま車に積んでおく方も多い。
- ・ 好きなメーカーのおむつを特売日に購入する方も多い。



### ○保育士の所感

- ・ おむつ交換を我慢する必要がないため、ストレスが少ない。
- ・ サブスク利用者と通常のおむつ持参がいることで、おむつの管理が心配だったがそうでもなかった。
- ・ おむつを注文できるタイミングが自由であるのはよいが、一度に5箱以上の注文となるのがネック。
- ・ 登録・抹消時にメールでお知らせが来るが、急なこともあるため慌てることもある。

● 和泉市で考えられること

かほく市では、手ぶら登園を含む紙おむつのサブスクリプションについて、インターネットなどで把握していたが、保護者や保育士の負担軽減になるのではないかと、おむつのサブスクという仕組みが市の保育所や子育て世帯の実情に合うものなのか疑問があったそうである。そのため、当時はあまり需要がないのではないかと考えており、導入を検討するに至らなかった。

導入の決め手になったのが、かほく市が2021年に導入した『CODMON』とシステム連携されていたことだった。『CODMON』を介して保護者が提供業者であるBABYJOBさんと契約などのやり取りを直接できるため、導入もスムーズに進みそうだと感じた。

公立の保育施設におむつのサブスクを導入したいという提案は2021年度の秋頃から行った。副市長が大変積極的に導入を後押しし、職員や市長も【いいサービスなら】と。特に市に費用負担がかからない点が前向きに検討する大きな要因だったということである。

現在本市では、おむつの持ち帰りをなくす方向へ民間保育園などができており、市の公的な保育園も持ち帰りをなくす方向になっていくと思われる。その際に、この「おむつのサブスク」というサービスの導入も一考すべきメリットがあるのではないかと。